

結果の概要

刑務所・拘置所等

1 被収容者

(1) 収容状況

最近10年間の全国の刑務所及び拘置所の1日平均収容人員の推移は、第1表のとおりである。平成5年に増加に転じて以降、年々増加していたが、同20年から連続して減少しており、同27年は前年に比べ2,098人(3.4%)減少した59,670人(男54,689人、女4,981人)となっている。

第1表 1日平均収容人員の推移

区分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
総数	80,335	80,684	78,533	76,019	74,232	71,378	68,565	64,890	61,768	59,670
男	75,331	75,490	73,271	70,794	68,948	66,046	63,238	59,718	56,734	54,689
女	5,003	5,194	5,262	5,224	5,284	5,332	5,327	5,172	5,034	4,981
対前年比	3.1	0.4	-2.7	-3.2	-2.4	-3.8	-3.9	-5.4	-4.8	-3.4

(注) 刑務所・拘置所等(以下記載を省略)の2表(法務省ホームページにおける統計表番号「15-00-02」)。以下統計表番号のみを記載)参照

平成27年における1日平均収容人員の内訳は、第2表のとおりである。被収容者の種別で見ると、受刑者が52,193人(87.5%)、次いで、被告人が6,456人(10.8%)、労役場留置者が806人(1.4%)の順となっている。

第2表 1日平均収容人員の内訳

区分	総数	受刑者	死刑確定者	被告人	被疑者	労役場留置者	その他
人員	59,670	52,193	128	6,456	83	806	4
(構成比)	(100.0)	(87.5)	(0.2)	(10.8)	(0.1)	(1.4)	(0.0)
対前年比	-3.4	-3.6	-	-1.9	-4.6	-	-

(注) 1表(「15-00-01」)及び2表(「15-00-02」)参照

(2) 年末収容人員

最近10年間の年末における収容人員の推移は、第3表のとおりである。収容率(年末における収容定員に対する年末収容人員の比率)は、平成13年から同18年まで6年連続して100%を超過していたが、同19年から9年連続して収容定員を下回っている。

第3表 年末収容人員の推移

区分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
年末収容人員	81,255	79,809	76,881	75,250	72,975	69,876	67,008	62,971	60,486	58,497
収容定員	79,375	85,214	87,754	90,354	90,182	90,547	90,681	90,536	90,146	89,807
収容率	102.4	93.7	87.6	83.3	80.9	77.2	73.9	69.6	67.1	65.1

(注) 3表(「15-00-03」)参照

(3) 入・出所人員

最近10年間の入・出所人員の推移は、第4表のとおりである。刑務所及び拘置所の入所人員は、平成16年以降減少し、同27年は前年に比べ778人(1.9%)減少した41,060人(男37,179人、女3,881人)となっている。出所人員も、平成17年以降減少

し、同27年は前年に比べ1,274人(2.9%)減少した43,049人(男38,997人,女4,052人)となっている。

第4表 入・出所人員の推移

区分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
入所人員 (指数)	62,804 (100)	57,491 (92)	54,923 (87)	53,437 (85)	51,924 (83)	49,109 (78)	46,977 (75)	43,379 (69)	41,838 (67)	41,060 (65)
出所人員 (指数)	60,604 (100)	58,937 (97)	57,851 (95)	55,068 (91)	54,199 (89)	52,208 (86)	49,845 (82)	47,416 (78)	44,323 (73)	43,049 (71)

(注) 14表(「15-00-14」)参照

(4) 外国人被収容者

最近10年間の年末収容人員のうち、外国人被収容者人員の推移は、第5表のとおりである。平成27年の年末における外国人被収容者人員は、前年に比べ219人(6.4%)減少した3,226人となり、外国人受刑者人員は、178人(6.3%)減少した2,670人となっている。

第5表 年末収容人員のうち外国人被収容者人員の推移

区分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
年末収容人員(A)	81,255	79,809	76,881	75,250	72,975	69,876	67,008	62,971	60,486	58,497
うち、外国人被収容者人員(B)	6,179	5,919	5,353	5,027	4,803	4,433	4,012	3,657	3,445	3,226
うち、外国人受刑者人員	5,216	5,139	4,681	4,371	4,113	3,813	3,368	3,044	2,848	2,670
年末収容人員に占める比率 〔(B)/(A)×100〕	7.6	7.4	7.0	6.7	6.6	6.3	6.0	5.8	5.7	5.5

(注) 3表(「15-00-03」)及び8表(「15-00-08」)参照

平成27年の年末在所外国人被収容者の内訳は、第6表のとおりである。

このうち、来日外国人は2,157人であり、外国人被収容者年末収容人員に占める割合は66.9%となっている。

第6表 年末在所外国人被収容者の内訳

区分	総数	受刑者	未決拘禁者	その他
外国人被収容者 年末収容人員	3,226	2,670	430	126
うち、来日外国人	2,157	1,747	300	110

(注) 8表(「15-00-08」)及び9表(「15-00-09」)参照

平成27年の年末在所来日外国人被収容者の国籍は、第7表のとおりである。国籍別の人員総数は、中国が598人(27.7%)と最も多く、次いで、ブラジルが241人(11.2%)、イランが170人(7.9%)、ベトナムが138人(6.4%)の順となっている。

第7表 年末在所来日外国人被収容者の国籍

区分	総数	中国	ブラジル	イラン	ベトナム	フィリピン	韓国・朝鮮	メキシコ	ナイジェリア	タイ	アメリカ合衆国	ペルー	その他
人員総数	2,157	598	241	170	138	99	93	75	71	68	64	59	481
男	1,854	527	233	170	117	62	78	57	71	17	51	54	417
女	303	71	8	-	21	37	15	18	-	51	13	5	64
構成比総	100.0	27.7	11.2	7.9	6.4	4.6	4.3	3.5	3.3	3.2	3.0	2.7	22.3
男	100.0	28.4	12.6	9.2	6.3	3.3	4.2	3.1	3.8	0.9	2.8	2.9	22.5
女	100.0	23.4	2.6	-	6.9	12.2	5.0	5.9	-	16.8	4.3	1.7	21.1

(注) 9表(「15-00-09」)参照

2 新受刑者

(1) 新受刑者の収容状況

最近10年間の新受刑者人員の推移は、第8表のとおりである。新受刑者人員の総数は平成4年から同18年まで15年連続して増加していたが、平成19年から9年連続して減少しており、同27年は前年と比べ327人（1.5%）減少した21,539人（男19,415人、女2,124人）となっている。

第8表 新受刑者人員の推移

区	分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
人	総	33,032	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539
	男	30,699	28,272	26,768	26,123	24,873	23,273	22,555	20,643	19,744	19,415
	女	2,333	2,178	2,195	2,170	2,206	2,226	2,225	2,112	2,122	2,124
指	総	100	92	88	86	82	77	75	69	66	65
	男	100	92	87	85	81	76	73	67	64	63
	女	100	93	94	93	95	95	95	91	91	91

(注) 18表（「15-00-18」）参照

(2) 新受刑者の年齢

平成27年における新受刑者の年齢別人員は、第9表のとおりである。これを総数の構成比で見ると、40～44歳が14.5%（3,120人）と最も高く、次いで45～49歳が12.9%（2,774人）、35～39歳が12.3%（2,640人）の順となっている。

第9表 新受刑者の年齢別人員

区	分	総数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
人	総	21,539	36	1,166	1,956	2,383	2,640	3,120	2,774	2,152	1,623	1,376	1,238	1,075
	男	19,415	33	1,104	1,797	2,183	2,368	2,780	2,469	1,950	1,481	1,256	1,100	894
	女	2,124	3	62	159	200	272	340	305	202	142	120	138	181
構	成	100.0	0.2	5.4	9.1	11.1	12.3	14.5	12.9	10.0	7.5	6.4	5.7	5.0
	男	100.0	0.2	5.7	9.3	11.2	12.2	14.3	12.7	10.0	7.6	6.5	5.7	4.6
	女	100.0	0.1	2.9	7.5	9.4	12.8	16.0	14.4	9.5	6.7	5.6	6.5	8.5
前	年	-1.5	-7.7	-1.9	2.8	-2.2	-6.0	-3.7	1.6	0.0	1.3	-7.5	7.1	-4.6
	総	-1.7	-15.4	-1.8	3.6	-0.5	-6.8	-3.9	-0.1	-1.1	1.4	-8.9	6.5	-1.0
	男	0.1	-	-4.6	-5.4	-17.4	1.9	-1.4	18.2	12.8	0.7	9.1	12.2	-19.2

(注) 22表（「15-00-22」）参照

また、最近10年間の新受刑者のうち60歳以上人員の推移は、第10表のとおりである。平成27年における新受刑者のうち60歳以上人員の総数は、前年と比べ82人（2.2%）減少した3,689人（男3,250人、女439人）となっている。

第10表 新受刑者のうち60歳以上人員の推移

区	分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
人	総	3,717	3,727	4,017	4,056	4,093	4,069	4,127	3,962	3,771	3,689
	男	3,417	3,437	3,670	3,673	3,699	3,639	3,681	3,507	3,314	3,250
	女	300	290	347	383	394	430	446	455	457	439
構	成	11.3	12.2	13.9	14.3	15.1	16.0	16.7	17.4	17.2	17.1
	男	11.1	12.2	13.7	14.1	14.9	15.6	16.3	17.0	16.8	16.7
	女	12.9	13.3	15.8	17.6	17.9	19.3	20.0	21.5	21.5	20.7

(注) 22表（「15-00-22」）参照

(3) 新受刑者の罪名

平成27年における新受刑者の罪名別人員は、第11表のとおりである。これを、罪名別の総数の構成比で見ると、窃盗が33.1%（7,133人）と最も高く、次いで、覚せい剤取締法違反が27.8%（5,991人）、詐欺が8.8%（1,886人）、傷害が5.0%（1,073人）、道路交通法違反が4.6%（992人）、強制わいせつ・強姦が2.9%（633人）の順となっている。

第11表 新受刑者の罪名別人員

区分	分	総数	構成比	男	構成比	女	構成比
総	数	21,539	100.0	19,415	100.0	2,124	100.0
刑	法	13,511	62.7	12,313	63.4	1,198	56.4
放	火	109	0.5	92	0.5	17	0.8
文	等	56	0.3	54	0.3	2	0.1
強	強	633	2.9	631	3.3	2	0.1
制	姦	14	0.1	14	0.1	-	-
博	じ	231	1.1	193	1.0	38	1.8
殺	人	1,073	5.0	1,037	5.3	36	1.7
傷	害	75	0.3	70	0.4	5	0.2
危	傷	290	1.3	276	1.4	14	0.7
過	傷	7,133	33.1	6,238	32.1	895	42.1
窃	盗	546	2.5	525	2.7	21	1.0
強	強	1,886	8.8	1,777	9.2	109	5.1
詐	欺	181	0.8	178	0.9	3	0.1
恐	喝	270	1.3	247	1.3	23	1.1
横	任	169	0.8	168	0.9	1	0.0
暴	他	845	3.9	813	4.2	32	1.5
そ	の						
特	別	8,028	37.3	7,102	36.6	926	43.6
銃	法	76	0.4	76	0.4	-	-
砲	取	19	0.1	14	0.1	5	0.2
刀	締	45	0.2	39	0.2	6	0.3
剣	法	5,991	27.8	5,162	26.6	829	39.0
類	取	992	4.6	944	4.9	48	2.3
所	締	16	0.1	14	0.1	2	0.1
持	法	889	4.1	853	4.4	36	1.7
等	他						
取							
締							
法							
反							
法							
違							
反							
の							
人							
員							
の							
推							
移							
の							
人							
員							
の							
推							
移							

(注) 1 「強制わいせつ・強姦」にはそれぞれの致死傷を、「傷害」には傷害致死及び暴行を、「過失運転致死傷」には業務上過失致死傷及び重過失致死傷を、「強盗」には強盗致死傷及び強盗強姦・同致死を含む。

さらに、男女別に上位5位までの罪名で見ると、男は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、傷害、道路交通法違反の順で、女は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、道路交通法違反、殺人の順となっており、平成26年と同じ順となっている。女の場合、覚せい剤取締法違反及び窃盗の構成比がおよそ80%を占めているとともに、上位に殺人が挙がっている点が大きな特徴である。

なお、最近10年間の新受刑者のうち、覚せい剤取締法違反の人員の推移は、第12表のとおりである。平成27年における覚せい剤取締法違反の人員総数は前年と比べ25人（0.4%）減少した5,991人（男5,162人、女829人）となっている。

第12表 新受刑者のうち覚せい剤取締法違反の人員の推移

区分	分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
人	員	6,802	6,125	6,233	6,086	6,569	6,570	6,453	5,990	6,016	5,991
総	数	6,018	5,385	5,460	5,297	5,708	5,687	5,594	5,182	5,206	5,162
男		784	740	773	789	861	883	859	808	810	829
女											
構	成	20.6	20.1	21.5	21.5	24.3	25.8	26.0	26.3	27.5	27.8
比		19.6	19.0	20.4	20.3	22.9	24.4	24.8	25.1	26.4	26.6
総	数	33.6	34.0	35.2	36.4	39.0	39.7	38.6	38.3	38.2	39.0
男											
女											

(注) 18表（「15-00-18」）参照

(4) 新受刑者の刑名・刑期

平成27年における新受刑者の刑名別人員は、第13表のとおりである。

第13表 新受刑者の刑名別人員

区	分	総	数	懲	役	禁	錮	拘	留	死	刑
人	員		21,539		21,458		73		5		3
(構	成	(100.0)		(99.6)		(0.3)		(0.0)		(0.0)
)											

(注) 19表(「15-00-19」)参照

このうち、懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員は、第14表のとおりである。懲役受刑者の刑期別人員は、2年以下が8,051人(37.5%)と最も多く、次いで、3年以下が5,161人(24.1%)、1年以下が4,424人(20.6%)となっている。禁錮受刑者については、2年以下が30人(41.1%)と最も多い。

第14表 新受刑者のうち懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員

区	分	総	数	1年	2年	3年	5年	5年	無	期
懲	役									
人	員	21,458	4,424	8,051	5,161	2,713	1,084		25	
(構	成	(20.6)	(37.5)	(24.1)	(12.6)	(5.1)		(0.1)	
)		(100.0)								
禁	錮									
人	員	73	21	30	17	4	1		-	
(構	成	(28.8)	(41.1)	(23.3)	(5.5)	(1.4)		(-)	
)		(100.0)								

(注) 19表(「15-00-19」)参照

(5) 新受刑者の入所度数

平成27年における新受刑者の入所度数別人員は、第15表のとおりである。

第15表 新受刑者の入所度数別人員

区	分	総	数	初	度	2	度	3	度	4	度	5	度	6	度	以上
人	員	21,539	8,736	3,864	2,515	1,810	1,324	3,290								
(構	成	(40.6)	(17.9)	(11.7)	(8.4)	(6.1)	(15.3)								
)		(100.0)														
対	前															
年	比		-1.5	-1.8	0.5	-1.4	-6.1	6.0	-3.2							

(注) 23表(「15-00-23」)参照

次に、最近10年間の新受刑者のうち、初入者及び再入者人員の推移は、第16表のとおりである。初入者は、平成5年以降増加傾向を示していたが、同17年から減少し始めた。また、平成18年から10年連続して再入者が初入者を上回っている。

第16表 新受刑者のうち初入者・再入者人員の推移

区	分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
総	数	33,032	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539
初	入	16,504	14,863	13,347	12,775	11,874	10,865	10,275	9,348	8,892	8,736
(構	成	(48.8)	(46.1)	(45.2)	(43.8)	(42.6)	(41.5)	(41.1)	(40.7)	(40.6)
)		(50.0)									
再	入	16,528	15,587	15,616	15,518	15,205	14,634	14,505	13,407	12,974	12,803
(構	成	(51.2)	(53.9)	(54.8)	(56.2)	(57.4)	(58.5)	(58.9)	(59.3)	(59.4)
)		(50.0)									

(注) 23表(「15-00-23」)参照

(6) 新受刑者のうち初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴

平成27年の新受刑者のうち、初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員は、第17表のとおりである。保護処分歴を有する者は1,324人（15.2%）、刑の執行猶予歴を有する者は5,806人（66.5%）となっている。

第17表 初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員

区分	総数	保護処分歴					刑の執行猶予歴		
		あり	少年院送致	児童自立支援施設・児童養護施設送致	保護観察なし	あり	なし	なし	
人員	8,736	1,324	753	22	549	7,412	5,806	2,930	
(構成比)	(100.0)	(15.2)	(8.6)	(0.3)	(6.3)	(84.8)	(66.5)	(33.5)	

(注) 30表(「15-00-30」)参照

(7) 新受刑者のうち暴力団加入者人員

最近10年間の新受刑者のうち、暴力団加入者人員の推移は、第18表のとおりである。平成27年は前年に比べ312人減少した1,439人となっており、新受刑者に占める構成比も1.3ポイント低下した6.7%となっている。

第18表 新受刑者のうち暴力団加入者人員の推移

区分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
総数	33,032	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539
人員	4,143	3,665	3,265	2,960	2,592	2,359	2,094	1,889	1,751	1,439
(構成比)	(12.5)	(12.0)	(11.3)	(10.5)	(9.6)	(9.3)	(8.5)	(8.3)	(8.0)	(6.7)

(注) 46表(「15-00-46」)参照

3 再入受刑者

(1) 再入受刑者の再犯期間

最近10年間の再入受刑者（前刑出所前の犯罪により再入所した者を除く。）の再犯期間（前回の刑の執行を受けて出所した日から再入に係る罪を犯した日までの期間）別人員の推移は、第19表のとおりである。平成27年は1年未満が4,733人（37.5%）と最も多く、次いで、2年未満が2,663人（21.1%）、3年未満が1,577人（12.5%）の順となっている。

第19表 再入受刑者の再犯期間別人員の推移

区分	総数	再犯期間											
		1年未満		2年未満		3年未満		4年未満		5年未満		5年以上	
		人員	うち、3月未満	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員
		(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)	(構成比)
平成18年	16,361	6,588	1,953	3,327	2,015	1,156	767	2,508	1,156	767	2,508	1,156	767
19	15,402	6,389	1,982	3,244	1,802	1,049	740	2,178	1,049	740	2,178	1,049	740
20	15,443	6,313	1,943	3,245	1,864	1,117	764	2,140	1,117	764	2,140	1,117	764
21	15,355	6,289	1,951	3,293	1,820	1,084	779	2,090	1,084	779	2,090	1,084	779
22	15,034	5,877	1,813	3,265	1,900	1,123	786	2,083	1,123	786	2,083	1,123	786
23	14,464	5,719	1,722	3,076	1,871	1,124	735	1,939	1,124	735	1,939	1,124	735
24	14,296	5,618	1,708	2,954	1,776	1,154	799	1,995	1,154	799	1,995	1,154	799
25	13,233	5,177	1,457	2,804	1,647	1,007	742	1,856	1,007	742	1,856	1,007	742
26	12,833	4,827	1,377	2,806	1,604	962	774	1,860	962	774	1,860	962	774
27	12,626	4,733	1,334	2,663	1,577	1,034	784	1,835	1,034	784	1,835	1,034	784

(注) 54表(「15-00-54」)参照

(2) 再入状況

平成22年の出所受刑者29,446人（国際受刑者移送法により送出移送した者を除く。）について、同27年末までの再入状況は、第20表のとおりである。平成27年までの6年以内に再入所した者は、計12,079人（41.0%）となっている。また、満期釈放と仮釈放の別に6年以内再入者を比較すると、満期釈放は7,632人（51.0%）、仮釈放は4,447人（30.7%）となっている。

第20表 平成22年出所受刑者の平成27年末までの再入状況

出所事由	平成22年 出所受刑者	再入年別人員及び構成比						計						
		平成22年		23		24			25		26		27	
		人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)		人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)
総数	29,446	1,487 (5.0)	4,162 (14.1)	2,924 (9.9)	1,693 (5.7)	1,086 (3.7)	727 (2.5)	12,079 (41.0)						
満期釈放	14,975	1,296 (8.7)	2,844 (19.0)	1,689 (11.3)	904 (6.0)	550 (3.7)	349 (2.3)	7,632 (51.0)						
仮釈放	14,471	191 (1.3)	1,318 (9.1)	1,235 (8.5)	789 (5.5)	536 (3.7)	378 (2.6)	4,447 (30.7)						

(注) 63表(「15-00-63」)及び64表(「15-00-64」)参照

(3) 出所後6年以内に再入所した者の推移

出所後6年以内に再入所した者（出所受刑者のうち、国際受刑者移送法により送出移送した者を除く。）の推移は、第21表のとおりである。再入率については毎年低下している。

第21表 出所後6年以内に再入所した者の推移

区分	出所年									
	平成13年	14	15	16	17	18	19	20	21	22
出所受刑者	25,714	27,308	28,170	29,526	30,025	30,584	31,297	31,632	30,178	29,446
(うち、再入人員)	(12,188)	(12,594)	(12,751)	(13,143)	(13,266)	(13,305)	(13,387)	(13,365)	(12,659)	(12,079)
再入率	47.4	46.1	45.3	44.5	44.2	43.5	42.8	42.3	41.9	41.0

(注) 63表(「15-00-63」)及び64表(「15-00-64」)参照

4 出所受刑者

(1) 出所受刑者の人員及び出所事由

最近10年間の出所受刑者の出所事由別人員の推移は、第22表のとおりである。平成27年における出所受刑者人員の総数は23,566人であり、前年に比べ1,118人(4.5%)減少している。これを男女別に見ると、男が21,293人(90.4%)、女が2,273人(9.6%)となっている。さらに、出所事由別に見ると、満期釈放が9,953人(42.2%)、仮釈放が13,570人(57.6%)、国際受刑者移送法による送受刑者が43人(0.2%)となっている。

第22表 出所受刑者の出所事由別人員の推移

区分	平成18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27
人員数	30,600	31,341	31,680	30,213	29,461	28,583	27,485	26,535	24,684	23,566
男	28,598	29,187	29,431	28,029	27,294	26,308	25,188	24,186	22,459	21,293
女	2,002	2,154	2,249	2,184	2,167	2,275	2,297	2,349	2,225	2,273
指数	100	102	104	99	96	93	90	87	81	77
男	100	102	103	98	95	92	88	85	79	74
女	100	108	112	109	108	114	115	117	111	114
出所事由別										
満期釈放 (構成比)	14,503 (47.4)	15,465 (49.3)	15,792 (49.8)	15,324 (50.7)	14,975 (50.8)	13,938 (48.8)	12,763 (46.4)	11,887 (44.8)	10,726 (43.5)	9,953 (42.2)
仮釈放 (構成比)	16,081 (52.6)	15,832 (50.5)	15,840 (50.0)	14,854 (49.2)	14,471 (49.1)	14,620 (51.1)	14,700 (53.5)	14,623 (55.1)	13,925 (56.4)	13,570 (57.6)
送受刑等 (構成比)	16 (0.1)	44 (0.1)	48 (0.2)	35 (0.1)	15 (0.1)	25 (0.1)	22 (0.1)	25 (0.1)	33 (0.1)	43 (0.2)

(注) 67表(「15-00-67」)参照

(2) 出所受刑者のうち仮釈放者の刑の執行状況

ア 有期懲役受刑者

平成27年における有期懲役受刑者のうち仮釈放者13,291人(仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、更に仮釈放を許された者を除く。)についての刑の執行率は、第23表のとおりである。刑の執行率80~89%が6,218人(46.8%)と最も多く、次いで、90%以上が4,426人(33.3%)となっている。

第23表 有期懲役受刑者のうち仮釈放者の刑の執行率

区分	総数	刑の執行率				
		59%以下	60~69%	70~79%	80~89%	90%以上
人員	13,291	15	173	2,459	6,218	4,426
(構成比)	(100.0)	(0.1)	(1.3)	(18.5)	(46.8)	(33.3)
対前年比	-2.7	36.4	15.3	-4.6	-4.0	-0.4

(注) 70表(「15-00-70」)参照

有期懲役受刑者の仮釈放者のうち、刑の執行率80%以上の者についての刑期別人員は、第24表のとおりである。総数では10,644人(80.1%)、刑期1年以下では914人(91.3%)、2年以下では3,624人(75.7%)、3年以下では3,147人(77.3%)となっており、平成26年の総数10,921人(80.0%)と比べて執行率の高い者の割合がわずかながら増加している。

第24表 有期懲役受刑者の仮釈放者のうち刑の執行率80%以上の刑期別人員

区分	総数	刑期				
		1年以下	2年以下	3年以下	5年以下	5年を超える
有期懲役仮釈放者	13,291	1,001	4,788	4,069	2,442	991
うち、刑の執行率80%以上の人員	10,644	914	3,624	3,147	2,021	938
有期懲役仮釈放者に占める比率	80.1	91.3	75.7	77.3	82.8	94.7

(注) 70表(「15-00-70」)参照

イ 無期懲役受刑者

平成27年における無期懲役受刑者のうち仮釈放者(無期刑の仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、更に仮釈放を許された者2人を除く。)9人について、その受刑在所期間は、第25表のとおりである。仮釈放者の平均受刑在所期間は約378月(3年6月)である。

第25表 無期懲役受刑者のうち仮釈放者の受刑在所期間

区分	総数	14年以下	15年以下	16年以下	17年以下	18年以下	19年以下	20年以下	20年を超える
人員	9	-	-	-	-	-	-	-	9
(構成比)	(100.0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(100.0)

(注) 69表(「15-00-69」)参照

(3) 出所受刑者の刑務作業及び職業訓練など

平成27年における出所受刑者について、その在所時の刑務作業の業種別就業人員は、第26表のとおりである。業種別に見ると、経理作業(刑務所などの自主運営に必要な作業で、炊事、清掃、介助などの作業)が4,731人(20.1%)と最も多く、次いで、織物製品製造が2,993人(12.7%)、紙・紙製品製造が2,730人(11.6%)、化学製品製造が2,246人(9.5%)の順となっている。

第26表 出所受刑者の刑務作業の業種別就業人員

業種	人員	構成比	人員の対前年比
総数	23,566	100.0	-4.5
経理作業	4,731	20.1	-4.6
織物製品製造	2,993	12.7	-6.1
紙・紙製品製造	2,730	11.6	-5.4
化学製品製造	2,246	9.5	-3.3
紙細工	1,970	8.4	-6.1
金属加工・機械組立修理	1,764	7.5	-1.6
木工	961	4.1	0.3
ゴム・可塑物製品製造	496	2.1	-20.6
電気器具組立修理	457	1.9	-19.0
金属材料製造	398	1.7	-7.9
その他の技能工	350	1.5	-6.4
印刷・製本	333	1.4	-4.3
皮革・皮革製品製造	304	1.3	-4.1
飲食料品製造	226	1.0	4.6
農耕・牧畜	136	0.6	19.3
サービス	72	0.3	16.1
建設作業	50	0.2	-30.6
単純労働作業	45	0.2	18.4
その他	3,281	13.9	0.9
不就業	23	0.1	0.0

(注) 71表(「15-00-71」)参照

平成27年における出所受刑者の職業訓練種目別人員は、第27表のとおりである。総数3,218人（出所受刑者総数の13.7%）の、職業訓練修了者の受講種目の主な内訳を見ると、フォークリフト運転が371人（11.5%）と最も多く、次いで、情報処理が224人（7.0%）、ホームヘルパーが198人（6.2%）、溶接が186人（5.8%）、ビル設備管理が180人（5.6%）の順となっている。

第27表 出所受刑者の職業訓練種目別人員

業種	人員数	構成比
総数	3,218	100.0
フォークリフト運転	371	11.5
情報処理	224	7.0
ホームヘルパー	198	6.2
溶接	186	5.8
ビル設備管理	180	5.6
小型建設機械	156	4.8
販売	138	4.3
CAD技術	99	3.1
ビルハウスクリーニング	90	2.8
建設機械	62	1.9
農作業	62	1.9
内装	54	1.7
自動車整備	42	1.3
電気通信設備	41	1.3
工芸（革工芸）	35	1.1
その他	32	1.0
未修了者	1,105	34.3
	143	4.4

(注) 72表（「15-00-72」）参照

平成27年における出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員は、第28表のとおりである。総数2,141人（出所受刑者総数の9.1%）の資格・免許の主な内訳を見ると、フォークリフト運転者が350人（16.3%）と最も多く、次いで、車両系建設機械運転技能者が170人（7.9%）、危険物取扱者が161人（7.5%）、溶接技能者が143人（6.7%）、技能検定・技能照査が137人（6.4%）、ボイラー技士が134人（6.3%）の順となっている。

第28表 出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員

種類	人員数	構成比
総数	2,141	100.0
フォークリフト運転者	350	16.3
車両系建設機械運転技能者	170	7.9
危険物取扱者	161	7.5
溶接技能者	143	6.7
技能検定・技能照査	137	6.4
ボイラー技士	134	6.3
ホームヘルパー	122	5.7
CAD利用技術者	92	4.3
パソコン検定者	69	3.2
情報処理技術者	61	2.8
技能講習	60	2.8
ワープロ検定	39	1.8
リフト検定	28	1.3
玉掛技能者	27	1.3
理容師	27	1.3
電気工事士	26	1.2
その他	495	23.1

(注) 73表（「15-00-73」）参照

(4) 出所受刑者の帰住先

平成27年における出所受刑者（満期釈放者及び仮釈放者）の出所事由別の帰住先は、第29表のとおりである。総数で見ると、親族のもとが10,673人（45.4%）と最も多く、次いで、更生保護施設等が4,653人（19.8%）、知人のもとが1,563人（6.6%）の順となっている。出所事由別で見ると、満期釈放では、親族のもとが2,876人（28.9%）と最も多く、次いで、知人のもとが675人（6.8%）、更生保護施設等が379人（3.8%）となっている。仮釈放では、親族のもとが7,797人（57.5%）、次いで、更生保護施設等が4,274人（31.5%）、知人のもとが888人（6.5%）の順となっている。

第29表 出所受刑者の出所事由別の帰住先

帰住先	総数		満期釈放		仮釈放	
	人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)
総数	23,523	(100.0)	9,953	(100.0)	13,570	(100.0)
親族のもと	10,673	(45.4)	2,876	(28.9)	7,797	(57.5)
父,母のもと	6,401	(27.2)	1,551	(15.6)	4,850	(35.7)
配偶者のもと	2,227	(9.5)	653	(6.6)	1,574	(11.6)
兄弟,姉妹のもと	1,140	(4.8)	376	(3.8)	764	(5.6)
その他の親族のもと	905	(3.8)	296	(3.0)	609	(4.5)
知人のもと	1,563	(6.6)	675	(6.8)	888	(6.5)
雇主のもと	239	(1.0)	75	(0.8)	164	(1.2)
社会福祉施設	420	(1.8)	371	(3.7)	49	(0.4)
更生保護施設等	4,653	(19.8)	379	(3.8)	4,274	(31.5)
その他	5,975	(25.4)	5,577	(56.0)	398	(2.9)

(注) 83表(「15-00-83」)参照

(5) 出所受刑者の懲罰回数

平成27年における出所受刑者の初入・再入別懲罰回数は、第30表のとおりである。在所時に懲罰を受けた者は12,076人（出所受刑者総数の51.2%）となっている。初入・再入別で見ると、初入で懲罰を受けた者は4,450人（出所受刑者のうち初入者総数の45.5%）であり、再入で懲罰を受けた者は7,626人（出所受刑者のうち再入者総数の55.3%）となっている。

第30表 出所受刑者の初入・再入別懲罰回数

区分	総数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	なし
総数	23,566	4,682	2,149	1,206	820	621	2,598	11,490
(構成比)	(100)	(19.9)	(9.1)	(5.1)	(3.5)	(2.6)	(11.0)	(48.8)
初入	9,785	1,905	874	439	297	194	741	5,335
(構成比)	(100)	(19.5)	(8.9)	(4.5)	(3.0)	(2.0)	(7.6)	(54.5)
再入	13,781	2,777	1,275	767	523	427	1,857	6,155
(構成比)	(100)	(20.2)	(9.3)	(5.6)	(3.8)	(3.1)	(13.5)	(44.7)

(注) 78表(「15-00-78」)参照

5 休養患者 - 被収容者のり病状況

平成27年における休養患者（医師の診断を受けた者のうち、医療上の必要により病室又はこれに代わる室に収容されて治療を受けた者）の人員は、既決拘禁者（受刑者、死刑確定者及び労役場留置者）が10,878人（男9,661人、女1,217人）、未決拘禁者（被告人、被疑者など）が507人（男458人、女49人）である。

このうち、既決拘禁者についての主要病名別転帰事由別人員は、第31表のとおりである。病名別で見ると、呼吸器系の疾患が2,813人（25.9%）と最も多く、次いで、筋骨格系・結合組織の疾患が1,749人（16.1%）、消化器系の疾患が1,333人（12.3%）の順となっている。また、総数を転帰事由別に見ると、治癒又は軽快が9,577人（88.0%）、後遺が393人（3.6%）の順となっている。

なお、休養患者の平均り病日数は、既決拘禁者が56日、未決拘禁者が186日となっている。

第31表 休養患者の主要病名別転帰事由別人員（既決拘禁者）

病名	総数	構成比	総数	転 帰 事 由				
				治癒又は軽快	死亡	未治出所	後遺	その他
総数	10,878	100.0	10,878	9,577	236	341	393	331
			(100.0)	(88.0)	(2.2)	(3.1)	(3.6)	(3.0)
感染症・寄生虫症	365	3.4	365	304	2	16	16	27
			(100.0)	(83.3)	(0.5)	(4.4)	(4.4)	(7.4)
新生物	658	6.0	658	363	100	46	50	99
			(100.0)	(55.2)	(15.2)	(7.0)	(7.6)	(15.0)
内分泌、栄養・代謝疾患	241	2.2	241	199	3	15	13	11
			(100.0)	(82.6)	(1.2)	(6.2)	(5.4)	(4.6)
精神・行動の障害	630	5.8	630	344	5	87	160	34
			(100.0)	(54.6)	(0.8)	(13.8)	(25.4)	(5.4)
神経系の疾患	197	1.8	197	173	1	7	11	5
			(100.0)	(87.8)	(0.5)	(3.6)	(5.6)	(2.5)
循環器系の疾患	639	5.9	639	475	36	41	36	51
			(100.0)	(74.3)	(5.6)	(6.4)	(5.6)	(8.0)
呼吸器系の疾患	2,813	25.9	2,813	2,735	28	22	12	16
			(100.0)	(97.2)	(1.0)	(0.8)	(0.4)	(0.6)
消化器系の疾患	1,333	12.3	1,333	1,217	20	29	27	40
			(100.0)	(91.3)	(1.5)	(2.2)	(2.0)	(3.0)
皮膚・皮下組織の疾患	480	4.4	480	468	1	6	2	3
			(100.0)	(97.5)	(0.2)	(1.3)	(0.4)	(0.6)
筋骨格系・結合組織の疾患	1,749	16.1	1,749	1,696	1	27	16	9
			(100.0)	(97.0)	(0.1)	(1.5)	(0.9)	(0.5)
腎尿路生殖器系の疾患	279	2.6	279	203	11	22	26	17
			(100.0)	(72.8)	(3.9)	(7.9)	(9.3)	(6.1)
損傷・中毒	246	2.3	246	212	12	9	8	5
			(100.0)	(86.2)	(4.9)	(3.7)	(3.3)	(2.0)
その他	1,248	11.5	1,248	1,188	16	14	16	14
			(100.0)	(95.2)	(1.3)	(1.1)	(1.3)	(1.1)

- (注) 1 既決拘禁者について調査したものである。
 2 「未治出所」とは、治癒に至らないうちに満期、仮釈放又は刑の執行停止により出所した者をいう。
 3 「後遺」とは、12月31日現在において未治癒の者をいう。
 4 「その他」とは、他の矯正施設に移送になった者等をいう。
 5 ()内の数字は、各病名に対する転帰事由別構成比である。
 6 87表（「15-00-87」）及び88表（「15-00-88」）参照